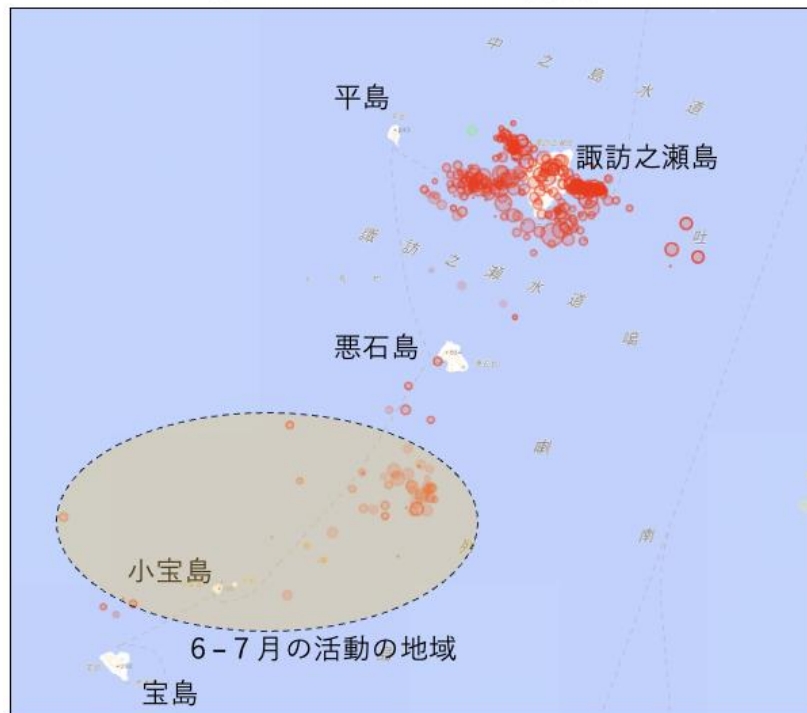


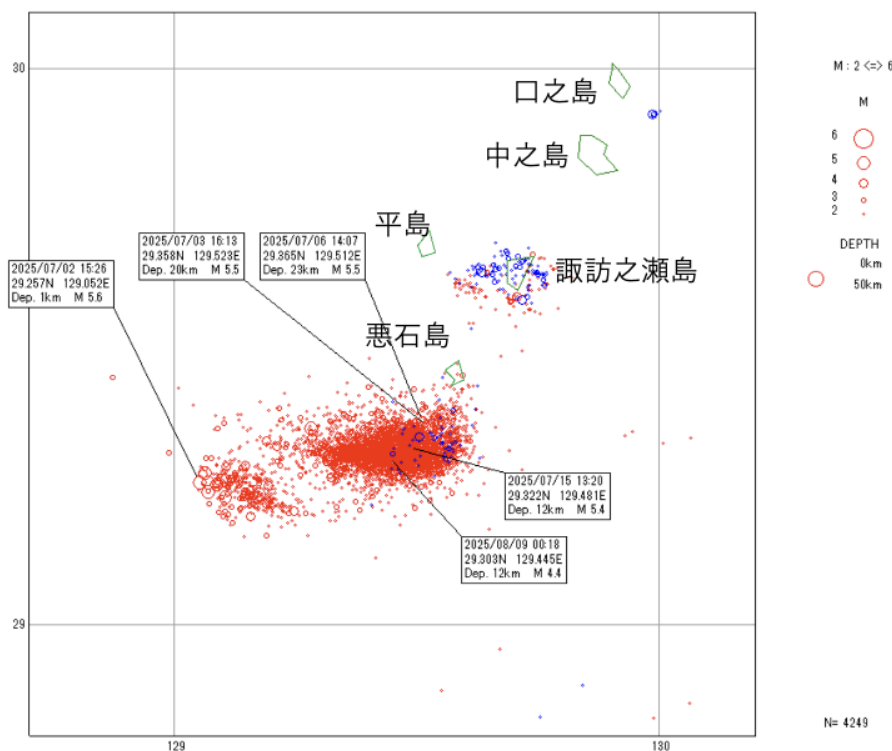
トカラ列島での群発地震に少し変化が見られます

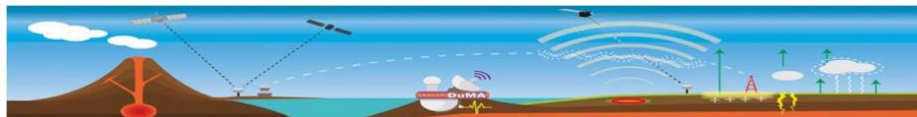
今年の6月中旬から、極めて激しい群発地震活動が鹿児島県・トカラ列島で続いています。この活動は、当初子宝島や悪石島の南方で地震の発生が続きました。それに対し、9月17日頃からは諏訪之瀬島の直下やごく近傍での地震が目立つようになりました。

9月13日から20日の地震活動



2025年8月31日まで 9月1日から19日まで



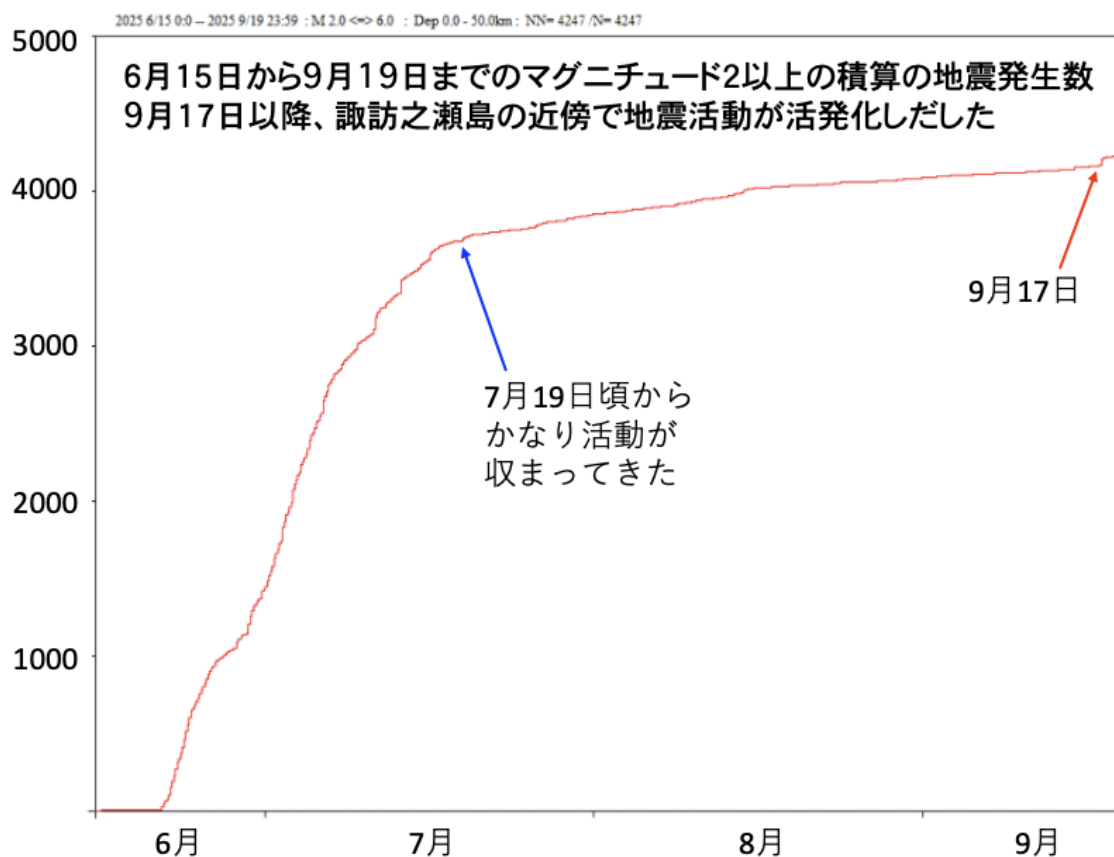


前のページの図は8月末までの地震を赤で、9月に入ってから発生した地震を青で示してあります。

9月17日には諏訪之瀬島で震度5弱を観測する地震も発生しました。

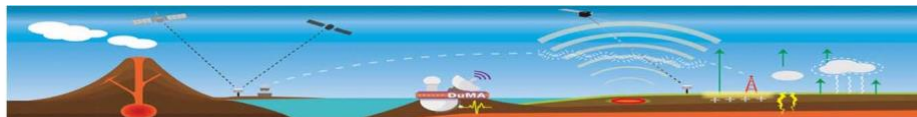
諏訪之瀬島は現在も噴火を続けている活火山であり、火山活動と明らかに関係する地震と考えられます。気象庁によれば、震源地は島の南西部や西部に集中しているとの事で、京都大学の井口正人名誉教授によれば「諏訪之瀬島では2019～20年に地震が多発し、地盤変動も確認された。その後に御岳で非常に活発な噴火活動があった」と解説しています。今回の震源は当時と同じで、「マグマ活動によって引き起こされた地震だ」と分析されています。

次の図は6月中旬以降のトカラ列島の群発地震の積算地震発生数です。今回の9月17日以降の諏訪之瀬島の地震の増加は一番右側の矢印の位置に相当します。



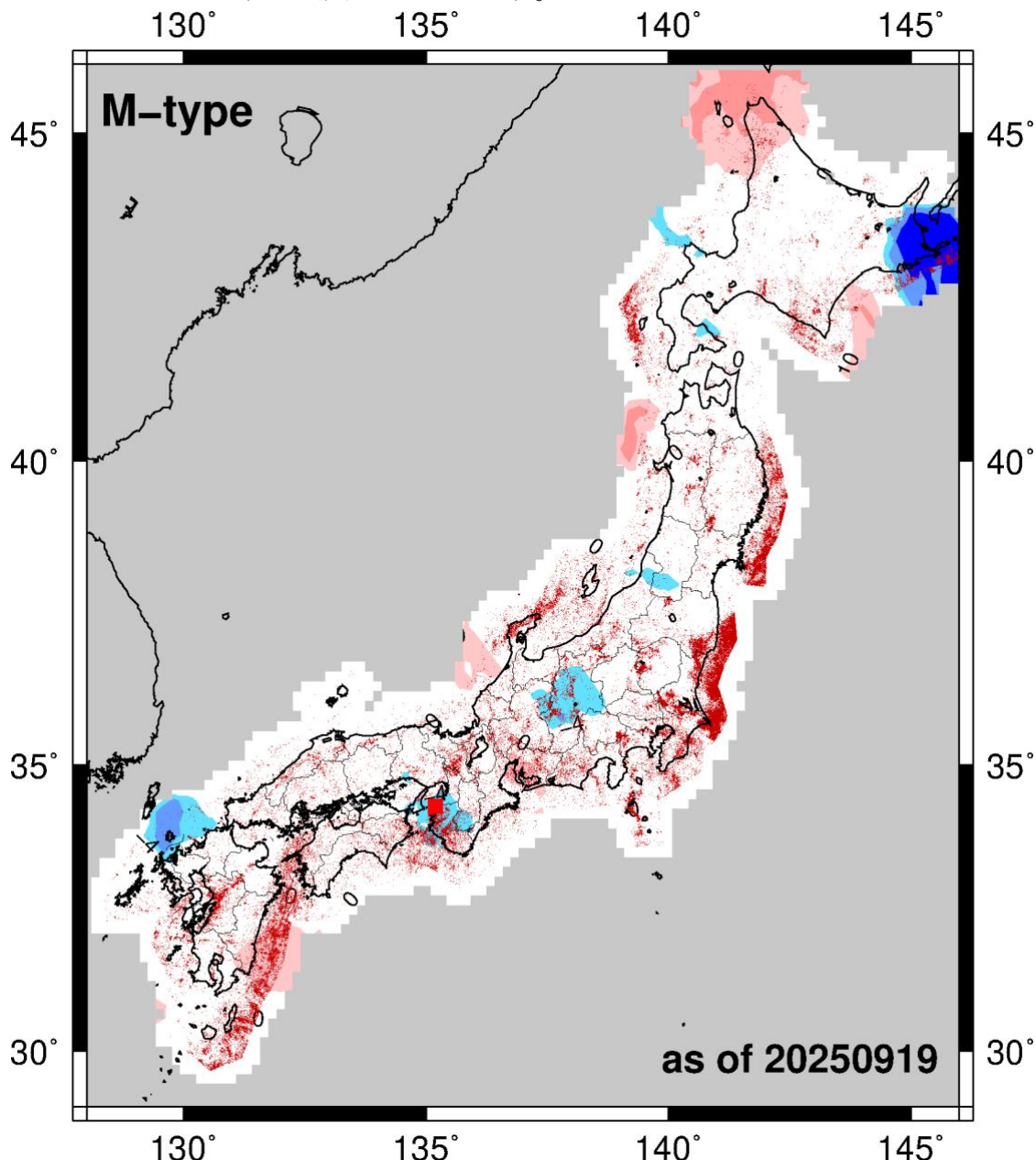
いずれにせよ、現在進行形のトカラ列島での群発地震活動は、すでにマグニチュード2以上の地震が4,000個を超えて発生しており、超弩級の群発地震活動である事を認識する必要があるかと思えます。また地殻変動も極めて大きく、マグマが関与している事も間違いありません。

7月21日のニュースレターでもこのトカラ列島の群発地震の歴史等についてまとめて報告しております。こちらも併せてご覧頂ければ幸いです。



日本列島陸域の地下天気図®

8月18日のニュースレターに続き、日本列島の主に陸域に特化した地下天気図解析です。今週は9月19日時点の M タイプの地下天気図をお示しします。



これまで言及してきました中国地方の地震活動静穏化はほぼ解消しています。紀伊半島およびその周辺の静穏化も解消傾向である事がわかりました。

ぜひ8月18日の DuMA ニュースレターについても、もう一度ご覧頂ければとおもいます。中国地方および近畿地方から目が離せない状況かと考えています。

なお来週9月29日は第五月曜日のため、DuMA ニュースレターは休刊となります。